

---

# 豊臣帝國

旭日旗

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

豊臣帝國

### 【Nコード】

N9291D

### 【作者名】

旭日旗

### 【あらすじ】

日本は統一され、秀吉は天下人となった。そこで秀吉の甥である秀次が編成した諜報集団「日ノ本組」の動きで世界が変わり始める。フィクションであり敢えて年月を書かないので注意。

## 第一話世界戦略

この作品はフィクションです史実とは関係ありません。

「日ノ本組は朝鮮をどう分析したのかね？」

「朝鮮は九州の真北にあります。西国の温暖な気候ではなく気候は寒冷

であり主力を西国大名ではなく東国大名にするべきであります。しかし明が

介入してくるので勢力を広げるならば」

日ノ本組とは秀吉の甥の秀次が作らせた秀吉直属の諜報組織である。甲賀の忍者や、他の大名から忍者を引き抜いて主力とし異国に詳しい者

を集めてきた日本一の諜報集団と言われている。

秀吉は日本を統一した後海外に関心を寄せていた。世界征服とまではいかない

までも、海外に侵攻しようとしたのは明らかであろう。武力だけではなく国を

富ますのは貿易だと思っている。日ノ本組は極秘のうちに南蛮船の作り方をヨ

ーロッパ人から盗み出し、ヨーロッパ人の軍事に詳しい者を迎え入れたりして

いる。それで秘密裏に豊臣直属軍団を作った。

「豊臣直属軍団は日本最強だが全国の大名に軍勢を派遣させねばならない。戦いは数を揃えて行うものよ。」  
と秀吉が言った。

豊臣直属軍団の陸上歩兵兵力は一万二千人であり、量より質というイメージが

強く先鋭中の先鋭である。特に西洋馬を輸入して作った日本初の騎兵が千人で

あり、今まで日本に無かった馬車も導入そして西洋から輸入した火炮が五百門

、そして一番大きいのが今まで日本に無かった概念の 歩兵 砲兵 騎兵 の

「三兵編成」である。ちなみに駐屯地は大坂城の周りに駐屯させてある。豊臣

直属艦隊は百隻のガレオン船から出来ていて、海外侵攻も可能になっていた。

「日ノ本組を明と朝鮮に潜伏させてある。琉球の西の高山国と北方の偵察

をさせようと思う。笠長はどう考えるか？」

神龜笠長は言った「高山国は未開の地で国とはぜんぜん呼べません。朝貢

を求めても返事が無いのが良い例でしょう。琉球を併合し大名とした後攻略

するのが一番でしょう。南蛮との交易拠点となります。」

「琉球をどう扱うかだな尚寧を大々名として扱い徳川家康や毛利輝元と

同じ扱いにさせるか？」

「南蛮馬や鉄砲、大砲、南蛮船を送り友好の意志を伝え、高山国に進攻

させます。島津への牽制となります。我が直属軍団と合同演習させれば

効果的でしょう。」これが笠長の返事。

「しかし尚氏は唐に朝貢しているからな・・・。」

秀吉の口が止まる。

実を言うと日ノ本組の潜伏組から情報が届いたのだ。

内容はというと「唐に朝貢している国は本気で唐が中華（世界の中心）であり

最も強大であると信じていて、問題に関わると唐の王朝が強大であるとき

に必ず介入する。そしてその問題を解決するには最大限の待遇をあたえてやるべき。」

と笠長の家臣に届いた。

「家康などと並ばせるには軍事力が足りないから良いと思うぞ。」

これで朝鮮出兵計画が帳消しとなり、高山国出兵が決まった。



## 第二話 演習（白組の作戦）

ここは畿内にある演習場である。

「タツ、タツ、タツ、」前回出てきた豊臣直属軍団の演習の陣形歩行で出た足音である。

「皆の者、足を止めよ。」派手な格好をしている小さい男が言った。実を言うと太閤秀吉である。周りには護衛がたくさん。すぐ演説を始めた。

「一ヶ月後に片方の城が陥落するまでをする。我が直属軍団を二分し赤組

と白組に別れてもらう。我が直属軍団は全国から兵を集め、高い錬度を誇っているが、実戦に慣れてもらう為にこの演習を開催したつもりだ。もちろん優秀な部隊には褒美を用意してある。」

秀吉式教育により、豊臣直属軍団は士気が高い。何のために実戦演習を行うのかというと高山国及び北方（蝦夷が島）侵攻をするためである。当然諸大名にも出兵させるが、もっとも先鋭である豊臣直属軍団

は秀吉にとって一番信用できる軍隊であった。

軍団はちょうど赤組白組に分かれ、秀吉は大阪城へと帰った。

豊臣直属軍団は史実では無名であった人物を登用した。諸大名に戦力を気づかせないためである。ちなみに判定は豊臣の演習判定部隊がする。ちなみに、豊臣直属軍団には演習用兵器が充実している。

赤組白組を紹介。

赤組指揮官：丸山大将

白組指揮官：来鋒大将きほう

白組側は攻勢的な作戦を考えた。なぜなら膠着状態に置いた場合両方とも兵糧がつき他の兵器弾薬までもが尽きてしまうと思ったからだ。赤組側の城を包囲して城からの自分の砲撃隊の注意を手薄にして、遠距離からの砲撃隊によって

攻城戦に持ち込もうとしていた。そのために補給部隊の護衛をしなくて

済むからだ。攻城戦に持ち込む作戦と言っても過言ではない。

白組側は来鋒大将きほうが防御を重視する作戦をよくたてるといふ噂を聞いて攻城戦に持ち込む作戦にした。

一方赤組側は野戦築城や落とし穴、馬防柵、を使って敵を迎撃する作戦を考えた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9291d/>

---

豊臣帝國

2010年10月9日11時11分発行